

1, 工夫していること

- ・去年度の目標である児童数削減は達成された。去年度よりも活動スペースの確保や保護者との密なやり取りはしやすくなった。保護者側からも連絡を頻繁にしてくれるようになり、家や学校・他事業所の様子を話しやすいような関係づくりができています。
- ・相談支援事業所との密な連携ができています。他事業所の様子が把握しやすくなった。
- ・面談回数は去年と一緒だが、必要な回数を行っている。面談で補えないところは送迎時や電話等で連絡を取り合うようにしている。
- ・活動については天気や子どもの体調を考慮しながらチームで話し合い、安全確保をした上でやっている。
- ・職員の勤続年数が増え、研修や会議へ参加することによって、知識・経験が豊富になってきた。

2, 課題

- ・保護者同士が関わる機会が少ない。去年度よりも親子イベント等の回数が減った。
→父母会等は学校などでも行われるため、学童では、同学年だけでなく異学年の交流の機会を増やしていく。
また、保護者会の内容の見直しをし、保護者同士がそれぞれ抱えている課題について話し合えるような場の提供をしていく。
親子イベントは、年間計画の中で水泳教室・太鼓教室など他活動とのバランスを考え、内容・回数等の検討をしていく。

・利用時間について

- 子供の成長においては家で過ごす時間や学校・学童で過ごす時間のバランスを取ることが大切。
現状では職員の勤務時間、送迎ルート、曜日ごとの子どもの利用状況によってすぐに変えていくのは難しい面がある。
子どもの成長において適切な利用時間を考え、来年度の新体制になるまでの間で利用時間や勤務時間について検討をしていく。